

市立奈良病院を受診された患者様へ

当院では下記の臨床試験を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用又は提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせください。

研究課題名	『胆嚢動脈が供血する肝細胞癌（HCC）に対するカテーテルを用いたインターベンショナルラジオロジー（IVR、アイブイアール；『画像下治療』とも言います）治療*の実効性についての検討』 *： https://www.jsir.or.jp/shimin/about_ivr/what_ivr/
当院の研究責任者	所 属：放射線科 責任者：穴井 洋
他の研究機関および各施設の研究責任者	無し
本研究の目的	手術不能進行肝細胞癌（HCC）に対する肝動脈化学塞栓術（TACE）、肝動注化学療法などのカテーテルを用いたインターベンショナルラジオロジー（IVR、アイブイアール）治療は有用な治療法として重要な役割を担っています。HCCに対するTAEにおける治療は1980年代より普及し、画像診断の進歩に加えマイクロカテーテルの開発など周辺医療機器の進歩に伴い、局所制御能の向上が得られるようになってきており、このマイクロカテーテルを用いた選択的TAEは、2004年に保険認可されたラジオ波凝固療法（RFA）などの局所穿刺治療などの非手術的根治治療の代替治療としての役割も担っており、HCC治療におけるTAEの守備範囲は広範囲に及んでいます。 HCCは時に肝内動脈のみならず肝外からの供血を受け存在することがあり、肝外側副供血動脈からのTACEをはじめとする治療も現在行っておりますが、治療に伴う肝外側副供血する動脈が本来供血する臓器の損傷につながると想定された場合には治療の方法や内容の変更を行い、合併症の低減を担保しつつ、可能な限り治療効果を向上させようとしています。 今回、肝外側副供血動脈の一つである、HCCに対して胆嚢動脈の関与が疑われ、治療を行った患者様における、これまでの治療法の妥当性について検討することとしています。
調査データの該当期間	2015年4月～2020年12月
本研究の対象及び方法（使用する試料等）	当院で2015年4月～2020年12月の間に、肝動脈化学塞栓術（TACE）、動注療法や血管造影が施行された肝細胞患者様を対象とします。 術前評価：年齢、性別、肝機能（Child Pugh score）、腫瘍の大きさ、個数、既往治療歴 術中・術後評価：手技の内容（手技の達成度含め）、局所治療効果、局所再

	<p>発の有無、予後確認。</p> <p>術中ならびに術後有害事象（CTCAE ver4 や SIRcriteria にのっとして評価）。特に胆嚢炎。</p>
<p>試料・情報の 他の機関への提供</p>	<p>あり。</p>
<p>個人情報の取り扱い</p>	<p>収集した情報は、名前などの患者様を特定できる個人情報除いて匿名化いたしますので個人を特定できるような情報が外に漏れる可能性はありません。また研究結果は学術学会や学術雑誌などで発表される要諦ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。</p>
<p>本研究の資金源 (利益相反)</p>	<p>本研究に関連し、開示すべき利益相反はありません。</p>
<p>お問い合わせ先</p>	<p>T E L : 0742-24-1251</p> <p>担当者：穴井 洋</p>
<p>備 考</p>	<p>本研究は過去に施行された治療を後ろ向きに検討するのみであり、患者様に新たな検査や費用の負担はありません。また研究の対象となる患者様に対しての謝礼もありません。</p>